

家族、社会、国々をHIVとエイズから救うための活動

生命と平和の大使と呼ばれて

第26回庭野平和賞(2009年)贈呈式受賞記念講演
ギデオン・バグマ・ビヤムギシャ参事司祭

2009年5月7日 日本、東京

立正佼成会、庭野平和財団総裁ならびに関係者のみなさま
庭野平和財団理事長ならびに関係者のみなさま
専務理事ならびに関係者のみなさま
事務局長
庭野平和賞委員会委員長ならびに委員のみなさま
傑出したすべての外交官および高官のみなさま
親愛なる私の妻パメラ、偉大なる私の弟パディ、そして世界中にいるキャノン・ギデオンの全ての友人と家族
この偉大な国日本のすべての指導者と国民のみなさま
同郷のみなさま、同じ地球市民であるみなさま、そして同じく宗教指導者であり、また信仰を分かち合うみなさま
紳士、淑女のみなさま

みなさまに平和と健康そしてより多くの祝福が訪れますように。
私は大きな喜びとともに謙虚な心で、HIV陽性者であるすべての“生命と平和の大使”を代表し、第26回庭野平和賞をお受けいたします。“生命と平和の大使”とは、より安全で、より健康で、より生産的で、より生きがいと平和に満ちた世界を、年齢や性別や肌の色や信仰や地理的な違いを超えて、私たちすべてにもたらしするために懸命に奮闘している人々であります。

庭野平和財団から今回の受賞の通知をEメールで頂いたとき、私は最初その内容を信じてできませんでした。これはきっとインターネット上の詐欺グループから送られてきたもので、「懸賞に当選しました」とか「富豪の遺産の相続者に選ばれました」などといった文言で騙し、住所や銀行口座情報を聞き出して、果てにはなけなしの預金までを奪おうとする類のものだろう、というのが私の最初の反応でした。それが嘘ではないと思えるようになったのは、2008年10月に財団の事務局長の高谷忠嗣氏が財団理事長のサインの入ったお手紙を携えて私たちを訪ねて下さった時からです。

2005年、ハンス・キューング博士がご自身の受賞記念講演において述べられたように、「この世には、叶わぬ夢というものがあります。その一方で、叶うことなど夢にも思わなかったことが現実になることもあります。」¹

以来、私は庭野平和財団に関する多くの資料に目を通し、財団について学ぼうと努力しました。私は資料を読み、また高谷事務局長との会話を通して、庭野平和財団が世界平和に向け、宗教協力の推進や援助に多大な労力を注がれていること知り、大きな喜びとともに勇気を頂きました。

私が生活し活動している地域には次のような問題があります。

- ・社会経済、文化、教育、科学技術、精神、政治における貧困。
- ・予防や制御が可能であるはずの感染や病気、そして死の存在。
- ・社会経済、文化、教育、科学技術、宗教、政治における不正、差別、排斥、紛争。
- ・個人、家族、地域社会、国家において、そして、さらに幅広い地域や全地球規模において、生命を危険にさらし、生命を削り取り、奪い、浪費している行動、判断、習慣、政策、計画、提携関係、資源の配分や管理体制、またさまざまな出来事に対する極端な脆弱性。

私たちは常にこうした問題の克服を考えながら、全体の平和、健康、幸福を求める日々の霊的な努力、献身、協力、反省を行っています。

優れた科学、正しい自己管理、そして良好な国際関係があれば、HIV・エイズは予防・管理・制御がほぼ可能であるはずですが、その世界的な流行は、

- ・自己防衛や注意に向けた正確な情報、
- ・さまざまな状況の中で、病気に対するリスクや脆弱性を正しく認識する適切な態度、
- ・HIV・エイズの予防策、また介護や治療法の向上や影響緩和に向けて必要とされる適切な技術やサービス、そして、
- ・安全な行動や習慣に対する人々の認識を高め、受け入れやすく整え、普及・習慣化をサポートする（同時に何が危険かを世に知らしめ、誰もあえてそのように行動をとらないように、危険な行為を人々にとって受け入れにくく評判の悪いものにしていく）社会経済・文化・教育・科学技術・医学・宗教・政治の環境

の欠落によって、社会的に最も脆弱な立場に置かれている個人、家族、地域共同体、国々、そして宗教に対し甚大な被害を与え続けています。

HIV・エイズの世界的規模の流行は、個人、家族、地域社会、国家、そして地球共同体が有する態度や科学、さらには私たちの精神性、宗教性、道徳性をテストする一つの挑戦であります。それは私たちが備えている人道、文化、宗教、経済、教育、開発、人権、健康、安全、科学技術、そして自立性に対する挑戦でもあります。それはまた、生命を脅かし、弱め、奪い、浪費する感染や疾病、さらに私たちが地球市民として直面するその他のあらゆる出来事を通して、私たちが有している経済的、社会的、文化的、教育的、医学的、技術的、精神的、政治的な戦略や手段やパートナーシップの強さを試すものでもあるのです。

しかし、ここで朗報と言えるのは、私たちが地球市民としてまた世界のリーダーとして、HIV・エイズを阻止し、後退させ、ついには打ち破るために必要な知識、科学、技術、価値観、そして国際間の協力や行動に向けた構造を備えているということです。

私たちに必要とされるのは、ヨルダン王子のエル・ハッサン・ビン・タラール殿下が「相互確証生存」²と呼ばれた「市民の外交」³を展開し、拡大していくことです。思慮深く、一途で、献身的な個人や人々のグループ、そして庭野平和財団のような財団や協会が進めている行動が、この世界をより安全で健康で平和な場所にしていくことを、私たちは決して疑ってはいけません。アメリカ人文化人類学者マーガレット・ミードの言葉にありますように、まさに「唯一それがなせるのみ」なのであります。⁴

HIV・エイズの状況に当てはめた場合、相互確証生存とは、国家、非国家そして国家間における“生命と平和の大使”たちが、政策、構想計画、人事、協調体制、資金提供の仕組み、宗教的教えや礼拝の確立に向けて取り組むことを意味します。その目的は、SSDDIM、すなわちHIV・エイズに関係する汚名(Stigma)、恥(Shame)、否定(Denial)、差別(Discrimination)、怠惰(Inaction)、誤った行動(Mis-action)の撲滅に向けた努力を加速することであり、またSAVE、つまり、

- ・安全な行動(Safe practice)：禁欲・節制をして不倫行為をしないこと、正しいコンドームの使用、母子感染の予防、安全な輸血、安全な注射、安全な割礼、そして安全な殺菌消毒薬やワクチンの開発など、
- ・日和見感染の予防、性感染症予防、暴露後発症予防、抗レトロウイルス療法などの治療と栄養補給へのアクセス(Access to treatment and nutrition)、
- ・自発的、定期的、被験者に恥辱を与えないHIVのカウンセリングと検査(Voluntary, routine and stigma-free HIV counseling and testing)、
- ・HIV・エイズと共に生き、もしくはそれらに対し脆弱な子供達、若者、女性、男性、家族、地域社会、国家に対する、経済、社会、文化、精神、教育、科学技術、政治面における地位向上、(Empowerment of children, youths, women, men, families, communities, nations living with or vulnerable to HIV and AIDS)

を促進し、広めていくことでもあります。

さまざまな努力や計画が実行され、イニシアチブがとられてきたにもかかわらず、アフリカの多くの国々や地域、さらにはその他の地域においても、HIV・エイズに関連した感染や疾病や死は、容認できない高レベルで増え続けています。世界中で最も脆弱な地域や国々に暮らす私たちの仲間は、この致命的な病気に対しその場しのぎの解決策はもう効果がないことを知っています。

個人に焦点を当てるだけで、家族や地域社会や国家レベルの義務や責任に対する意識を喚起することなく、限定的、不正確、かつ人に恥辱を与えるようなアプローチやメッセージに終始するだけでは、この伝染病から私たちの子供たち、若者、男女、

家族、地域社会、そして国家をSAVEする（救う）ことはできません。

いま最も緊急に必要とされるのは、官と民そして地域と世界との創造的なパートナーシップであり、社会のあらゆる階層や局面において、HIV・エイズ関連のSSDDIM撲滅とSAVEの増大に向けた、ひたむきで献身的な協力関係を構築することです。

私たちに備わった影響力や存在感、また伝統に受け継がれてきた慈悲や思いやり、そして隣人愛、さらには将来にわたる持続性を考えれば、私たち宗教指導者と宗教共同体が、それぞれの教会活動を通して提供するリーダーシップとサポートは、これからも大いに必要とされることでしょう。

親愛なる友人の皆さま、私と私の仲間たちに対し、このような大きな栄誉と心温まる励ましや友情、そしておもてなしを経験する機会を与えてくださったことに、いま一度感謝申し上げます。このすばらしい式典が終わった後も、私たちは本日のことを大切に心にとどめてまいります。

“生命と平和の大使たち”⁵との協力を共に進め、そしてさらには地球共同体の一員である個人、家族、地域社会、またそれぞれの国家、地域、大陸が共通に持っている“相互批判を自制し相互扶助を促進する”技術、科学、意思を互いに寄せ合い、統合することができれば、HIV・エイズとの戦いに勝利する日は、きっと私たちの多くが思っているよりも早く訪れるでしょう。

ありがとうございました。

1. ハンス・キュング博士 庭野平和賞受賞記念講演 2005年5月11日 東京 P.1
2. エル・ハッサン・ビン・タラール王子 庭野平和賞受賞記念講演 2008年5月8日 東京 P.2
3. 「市民の外交」とは、躍動する民主主義の中で、個々の市民や市民集団が、重要性の高い一定の事項において、国家間の関係、協力、結果を形成する権利を有するだけでなく、責務まで担っているという概念である。HIV・エイズの問題においては、“生命と平和の大使たち”は、年齢、性別、信条、居住地域の違いを超え、あらゆる人々に対し、より安全で、より健康で、より生きがいに満ち、より平和な世界の構築のために尽力している全ての人々を指す。彼らはHIV・エイズ関連のSSDDIM撲滅を促進し、SAVEを推進、増幅し、HIV・エイズをはじめとする生命を削り、脅かし、奪い、浪費する感染や疾病や出来事のない世界を実現するために、国家、非国家、国家間の活動、政策、計画に向けて人を動かし、資金提供をし、メッセージを発し、祈りを捧げている。
4. マーガレット・ミード The Coalition for Citizen Diplomacy（市民外交のた

めの連合) から引用。 <http://www.coalitionforcitizendiplomacy.org/about.html>

5. HIV・エイズ関連の感染、疾病、死亡に対し、教会での役務を背景にした“生命と平和の大使たち”に関する詳細は付録を参照のこと。